

「ごみの担当者」、行政は今何を行っているのか、私たち市民にできることは何があるのかを聞きました。

「ごみの出し方を理解していたつもりが・・・」

案内 ささゆりクリーンパーク 今井豊係長



ささゆりクリーンパークを初めて訪れました。施設案内は、広報担当の今井係長にいただきました。

今井さんに施設内を案内していただくうちに、今までごみの分別はそれなりに理解していたつもりでしたが、私自

身の取り組みの甘さに気がつきました。

例えば、可燃物収集袋の隅にたまる汚水になるべく取り除こうと新聞紙を入れて、吸い取っていました。ところが、水分は底に敷いた新聞紙に吸収させても、「ごみ袋の中では残ってしまうこと。また、新聞紙は資源「ごみです」と指摘されました。

また、スプレー缶などはガス抜きがしないと爆発事故にもつながり危険なため、再度人の手で分別作業をしていらっしやることも知らされました。

出す側の一人として分別収集の大切さを改めて認識すると共に、一人ひとりが分別収集に対して意識すれば、余分な労力や経費の節減にもつながるのだろうと感じました。

一人ひとりが、「ごみの減量に対する意識を

市環境経済部環境課 中嶋正典課長



中嶋環境課長さんに伺いました。

「ごみ」の分別・減量化について

中嶋 「分別」は進んでいます。ごみの量は増えています。増える要因としては、ライフスタイルの変化などが考えられます。

転入者や急増している外国人へのPRは

中嶋 転入された人には、分別収集の説明用パンフレットを窓口で、説明し渡しています。また、自治会未加入者には、パンフレットを郵送していますし、外国人には、ポルトガル語版や英語版を用意して、転入手続きの際にお渡ししています。

これからの分別は

中嶋 分別は、細かく分けるほど費用がかかりますので、分けたものを適切に再利用できることが大切です。しかし、処分場の埋め立て量を抑えるためには、分別と減量は不可欠です。

市民の皆さんには、まず第一にごみの減量を、そして出たごみについては、しっかりと分別していただければと思います。

「ごみを出さないことを心がけてほしい

リサイクルステーション ボランティア 渡辺寿一さん

リサイクルステーションでは、一度に大量の資源「ごみ」が運び込まれるため、市民ボランティアの皆さんが、お手伝いされています。その中のひとり、渡辺さんにお話を伺いました。

渡辺さんは、リサイクルステーションのお手伝いをされて4カ月。このボランティアを始めるきっかけは、環境問題について市民が話し合う「環境市民会議」に参加して、とりあえず

体験してみたいということでした。「市民の皆さんは、きちんと分別して持ってこられますが、基本となる「ごみを出さない事」を掲げながら、こんなにあっていいのかという矛盾と葛藤（かっとう）があります。市民からは（リサイクルステーションの）回数を増やしてほしいとか、常設にしてほしいなどの声もありますが、今の体制ではとても無理です。

NPOを立ち上げるなどの行動が必要ですが、でも、小中学校の資源回収とのバランスが・・・と話されました。

また、「せっかく小さい子どもさんらがついてこられることもあるので、心に何か残してやりたい。

こうした体験から（環境の大切さを）学んでほしい」と思う「ありがとう」のひとことに込めてみえるようでした。

